

住快環プロジェクト

～①街灯改善プロジェクト～

「基本コース」
まずやってみよう
にお応えする

夜間照度実測 実践ガイド

「上級コース」
行動が街の明るさに届く

「オプション」
拡張機能でプロの腕前に迫る

そうだ、照度計があったんだ。
なるほど、こんな場所だったんだ。
あれっ、けっこう暗かったんだ。
ほほう、こんなに明るさのバラツキがあったんだ。

街灯照度実測で街を明るく

目次

1. はじめに	3
2. 基本コース	4
基本コースの概要	5
基本コースの実測に必要なもの	6
照度計と照度について・計測位置	7
実測の計画を立てる・計測場所を決める際には	8
照度用語の意味	9
照度の基準	10
街灯直下照度実測の記録のとり方	11
3. 上級コース	12
上級コースの概要	13
基本コースの実測に必要なもの	14・15
水平器の使用方法について	15
事前準備をする	16
街灯の種類を調べる	17
実測の計画を立てる	18
実測経路を考える	19
実測の流れについて	20
街灯直下照度の実測	21
記録用紙の記入方法について	22
記入例	23
街灯直下照度実測の場合	24
実測値をもとに地図を作成する	25
照度マップの例	26
4. オプション	27
オプション1 実測調査への勧誘	28
オプション2 アンケート調査	29
オプション3 鉛直面照度	30
オプション4 均斉度	30
照度計貸出	31
5. あとがき・三浦研究室のお問い合わせ	32

「道はきっと明るくなる」…はじめに

■手引きの背景

路地が入り組み不安を感じる、女性・子どもがひったくりや痴漢にあいやすい、空き巣にあいやすい...これらは、夜道の明るさと深く関係しています。今や地域社会の安全・安心は、住民一人ひとりによる、事故・犯罪の未然防止を考慮した住環境の改善、とりわけ街灯改善の活動がなければ守れません。

■手引きの方向性

街灯改善の活動は、たとえ関心があっても実際に調査して、結果をきちんとデータ化し、説明・伝達を行う一連の流れが欠かせません。そのため住民の皆さまから改善を図るのは容易ではないと思いがちです。本手引きは、住民の皆さまが、「これならスムーズに、しかも、面白そうだから、やってみよう」という気持ちになっていただくことが何より大切であると考え構成・編集しています。

■夜間照度に着目する理由と目的

住環境問題の中でも特に、夜道の街灯の明るさの問題は地域の安全・安心に直結します。また、住民の皆さま一人ひとりの心がけで一番改善できるのが夜間照度問題です。「面白そうだからやってみよう」という気持ちが、地域の安全・安心の確保につながるがゆえに、夜間照度の調査に着目しています。その結果、皆さま自身の生活する地域の実態を調査・把握し、継続的に、より安全な空間を形成しようと取り組んでいただくことを目的としています。

■手引きの使用方法

本手引きは、夜間照度の実測により街灯改善に役立つという趣旨に沿って、2つのコースを設定。コースを選んでいただくだけで、適切な実測が行えるように構成しています。だれにでも楽しくできる「基本コース」は、有志など住民2～4名で暗いと感じた道路の街灯の下にて照度計で測って数値を記録する簡単なコースで、すぐに実践していただけるものです。

あなたの行動が街全体に広がる「上級コース」は、有志など住民10名前後を中心に、2つの方法で照度実測し、数値を記録する丁寧なやり方で、数本の道路や区画全体など、ある程度広範な対象に適しています。現地の下見、班ごとの実測、照度マップ作成など、照度実測に関する全ての要素を含んでいます。さらに拡張編として住民意識へのアンケート調査、緻密な鉛直面照度実測、分析を深めたい方のための拡張手法も加えました。

また付録として記録用紙やアンケート用紙をご用意し、状況にあわせてご活用いただけます。

まずやってみようにお応えする

「基本コース」

暗いと感じる道路を、
照度計で測って記録する簡単実測。

「基本コース」の概要

そうだ、照度計があったんだ。

※まず実測する場所の下見をして街灯位置を地図に書き込んでおきます。

①計測器を持って、

- ・デジタル照度計で楽しく測定を始めましょう。
- ・デジタル照度計は簡単に扱えます（水平を保ち、測定者の影をつくらないなどに注意）。

②夜、街灯のもとに立って測り、

- ・計測するいくつかの場所をあらかじめ決め、街灯の直下照度を測って、暗いと感じる場所の実際の照度を計測します。
- ・明るさの基準値は「3lx（ルクス）」。

③計測値を記録します。

- ・記録用紙に測った数値を記録します。
- ・なぜ暗いと感じたのかなど見つけた理由を書いておきましょう。
- ・計測値を元に、新たな街灯設置や街灯をコンパクト蛍光灯への付け替えなどの改善もあります。優先順位を決めて対策を考えていきます。

※記録用紙はここからプリントアウトできます。

Excel ファイルです。



街灯直下照度記録
用紙.xls

なるほど、こんな場所だったんだ。

基本コースの実測に必要なもの

これだけあればOK。

★街灯の直下照度を測って記録するために用意するもの一覧

- デジタル照度計（注1：市販されています）
- 懐中電灯（記録する際手もとを照らすなどに使います。懐中電灯の光が計測中の照度計に当たらないように注意してください）
- 地図（1/2500 地図）（注2：実測する場所を決めるために使います）
- 記録用紙（前ページの Excel ファイルをお使いください）
- 筆記具（ボールペン）、クリップボード

注1：デジタル照度計

照度を計測してデジタルで表示する装置。
単位は lx（ルクス）。



注2：地図

役所では1/2500の地形図が販売されています。1枚300円程度。細かい道や建物がすべて表現されています。Webサイトからプリントアウトできる地図も活用しましょう。

※1/2500 地図のサンプル

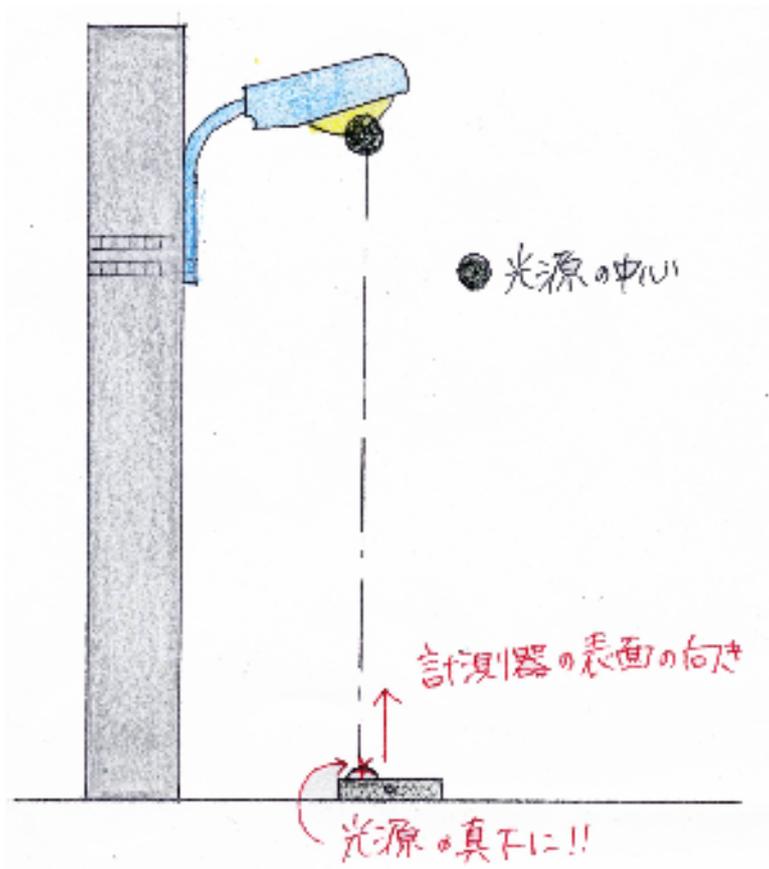


カンタン、あちこち測りたくなる。

★照度計と照度について

- 照度計は、インターネットの通信販売で購入できます。また、レンタルもあります。
- 夜間の道路の照度は10ルクス以下がほとんどです。そこで、0～10ルクスの範囲では、計測値が小数点第1位まで表示される照度計を選ぶ必要があります。例えば0.7ルクス、7.2ルクスのように計測することが大切です。
- 照度計の取り扱い説明書に従って計測するようにしましょう。どの機種もスイッチを入れて、測りたい場所に置くだけなので、とても簡単です。

★計測位置



チームだからできることがある。

★実測の計画を立てます

□日程を決める：

- ・ 1日程度確保してください
- ・ 満月の前後3日間は、月明かりが明るいため実測を避けましょう。

□雨天時の対応を考える

「延期日程を決めておく」、「後日再検討する」、「その他の対応を考える」に大別されます。

□役割分担を決める

基本パターンとしては、計測係1名、記録係1名、全体を見て安全確認をする監督係1名の合計3名を考えていますが、役割を兼ねれば1、2名でもできます。

こことあそこと、その先だけは外せない。

★計測場所を決める際には

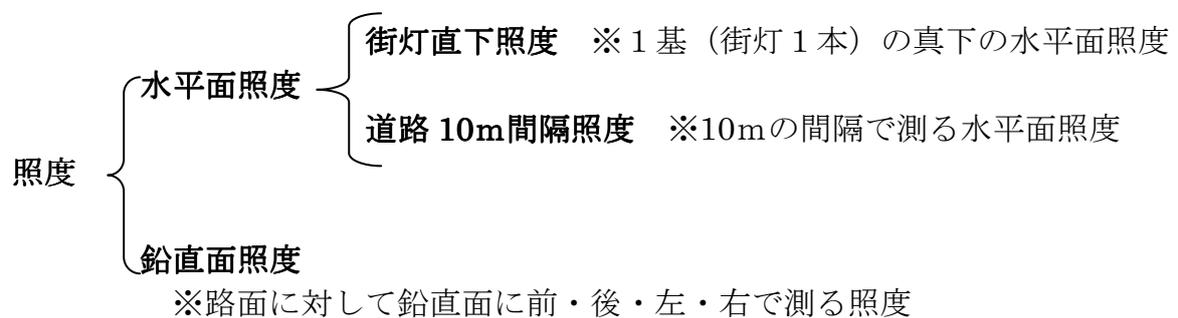
- ・ 1/2500程度の地図を入手し、計測する場所を先に決めておきましょう。
- ・ 数か所を計測することで、改めて暗いと感じた道路の照度の実態が把握できます。

水平面、鉛直面、照度の大別。

★照度用語の意味

照度とは、光に照らされている面の明るさの度合いのことで、[lx](ルクス)という単位を使います。明るさに関する基準の多くはこの照度を使って定められています。

測定する街灯の「直下照度」とは「水平面照度」のことです。照度の用語を大別すると、以下のようになります。



4m先がわかる3ルクス。

★照度の基準

表1に JIS の「歩行者に対する道路照明基準」、表2に日本防犯設備協会の「防犯灯の推奨照度」を示します。

道路の明るさについて歩行者や車などが安全に通行できるように、交通量などによって照度基準が定められています。JIS(日本工業規格)、日本防犯設備協会が照度基準を定めています。

※表1を用いて地域の現状と照らし合わせてください。

表1 JISの「歩行者に対する道路照明基準」

夜間の歩行者交通量	地域	水平面照度 (lx)
交通量の多い道路	住宅地域	5
	商業地域	20
交通量の少ない道路	住宅地域	3
	商業地域	10

表2 日本防犯設備協会の「防犯灯」の推奨照度

クラス	水平面照度 (平均値)	鉛直面照度 (最小値)	照明の効果
A	5lx	1lx	4m先の歩行者の顔の概要が識別できる
B	3lx	0.5lx	4m先の歩行者の挙動や姿勢等が分かる

番号、ルクス、気づいたところも。

★街灯直下照度実測の記録のとり方

□作業1 街灯番号を記入してください。

すでに記入されている場合は確認。

□作業2 計測値を「計測値 (lx)」の欄に記入してください。

□作業3 光源の故障などで明らかに暗い街灯があった場合は「気づいたこと」の欄に記入してください。街灯にはいろいろな種類があります。

※街灯番号は柱（独立したポール、電信柱、NTT 柱）に書いてあります。

街灯番号	計測値 (lx)	気づいたこと

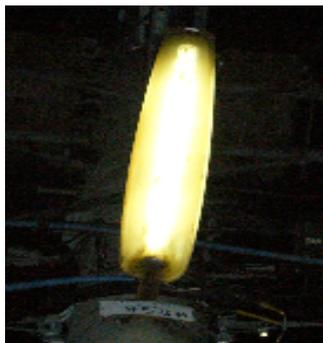
※記録用紙は、以下の Excel ファイルからプリントアウトしてご利用ください。



街灯直下照度記録
用紙.xls



カバーに汚れのないもの



カバーに汚れのあるもの



障害物の陰になっている

行動が街の明るさに届く

「上級コース」

暗いと感じる道路について 10m間隔で水平面照度を測り、
その間にある街灯の直下照度を測って記録し、
さらに地図で表します。

考えうる要素を随時追加できる柔軟性に富んだ内容です。

「上級コース」の概要

あれっ、けっこう暗かったんだ。

※まず実測する場所の下見をして街灯位置等を地図に書き込んでおきます。

※下見した実測場所を確認し、班別地図に従って実測します。

①暗い道路を 10m間隔で水平面照度を測り、

- ・ 竿につけた 10mの紐で測定位置を決めてから水平面照度を測ります。
- ・ 照度計を水平に保ち、測定者の影をつくらぬなどに注意します。

②さらに、その間にある街灯直下照度を測り、

- ・ 街灯直下照度を測って、道路全体の照度の高低差を把握します。
- ・ 明るさの基準値は「4 m先の歩行者の挙動や姿勢等が分かる 3lx (ルクス)」。

③計測値を記録し、最終的に照度地図にします。

- ・ 記録用紙に測った数値を記録します。
- ・ 別欄に、大まかに暗いと気づいた理由を書いておきましょう。

※水平面照度と街灯直下照度の記録用紙はここからプリントアウトできます。

Excel ファイルです。



水平面照度記録用紙.xls



街灯直下照度記録用紙.xls

ほほう、こんなに明るさのバラツキがあったんだ。

「上級コース」の実測に必要なもの

手作り道具には味がある。

★道路 10m 間隔照度と街灯直下照度を測り記録するために用意するもの一覧

- デジタル照度計（注 1：市販されています）
- 水平器（注 2：市販されています）
- 懐中電灯（記録する際手もとを照らすなどに使います。懐中電灯の光が計測中の照度計に当たらないように注意してください）
- 地図（1/2500）（注 3：実測する場所の下見、班別の実測値の書き込みなどのために使います）
- 記録用紙（Excel ファイルをお使いください）
- 筆記具（ボールペン）、クリップボード
- 竿と 10m の紐（注 4：自分たちで作しましょう）
- デジタルカメラ（現地の下見や実測当日備考欄に書き込む要素などを画像に残しておく
と便利です）

注 1：デジタル照度計

照度を計測してデジタルで表示する装置。
単位は lx（ルクス）。



注 2：水平器

右記の状態が水平を示しています。500 円ぐらいで市販されています。
計測器の数に合わせて購入してください。

注 3：地図

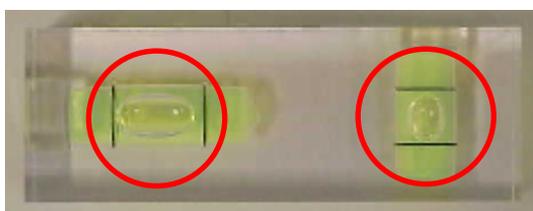
役所では 1 / 2500 の地形図が販売されています。1 枚 300 円程度。細かい道や建物がすべて表現されています。Web サイトからプリントアウトできる地図も活用しましょう。

注4：竿と10メートルの紐

紐を10mに切ったもの。これで10mを測ります。
両端に竿をつけると楽に測れます。
竿の部分に50cmの目盛りをつけると
道路端からの距離を測るのに便利です。



★水平器の使用方法について



黒い線の間(丸で囲んだ部分)に空気があると水平です。夜間照度を計測するときは、黒い線の間にあることを確認してください。

※水平器は照度計にテープなどで固定して使用します。

★照度計と照度について

- 照度計は、インターネットの通信販売で購入できます。また、レンタルもあります。
- 夜間の道路の照度は10ルクス以下がほとんどです。そこで、0～10ルクスの範囲では、計測値が小数点第1位まで表示される照度計を選ぶ必要があります。例えば0.7ルクス、7.2ルクスのように計測することが大切です。
- 照度計の取り扱い説明書に従って計測するようにしましょう。どの機種もスイッチを入れて、測りたい場所に置くだけなので、とても簡単です。

わが街はこんなだったのか。

★事前準備をする

□実測の役割分担を決めて班を組む

基本パターンとしては、計測係1名、記録係1名、10mの紐付きの竿を持つ係2名、全体を見て安全確認をする監督係1名の合計5名が万全です。役割を兼ねれば4名でもかまいません。2班以上を想定する場合は、計測器と水平器も各2台以上必要です。

実測を行う範囲の街灯番号を書き留めておきます。地区内の街灯を明るい時間帯にじっくり見る良い機会になります。

□事前準備をする日を確保する(1日)

- ・日中に行うと良いでしょう。

□街灯地図を準備する

- ・地図に街灯の位置を書き込みましょう。
- ・街灯地図は、一般的に街灯の管理団体が保持しています。役所管理の場合は、役所に行けば入手できる場合もあります。

□地区全体の街灯に番号を振る

- ・街灯には固有の番号が振られていますが、まれに番号がないものがあります。それらに、順に番号を振っていきます。
- ・街灯番号が剥がれているものには、手札サイズの市販のシールを購入し、太い油性マジックペンや蛍光ペンで、数字やアルファベットを組合せて記入して貼っておくと区別しやすいでしょう。

□地図に街灯番号を書き入れる



街灯番号のシールが貼られています

街灯といってもいろいろ。

□街灯の種類を調べる

代表的な街灯とその光源の特徴は以下の通りです。わかる範囲で事前に調べておきましょう。

●蛍光灯（1本式・2本式）

広く普及している直管ランプです。陰影の出来にくいフラットな光が得られます。省エネタイプも登場しています。

●コンパクト蛍光灯

直管蛍光ランプに比べて、同等の明るさで長さは約 1/3 のコンパクトサイズの光源です。

●ナトリウム灯

ナトリウム蒸気中の放電による発光を利用したオレンジ色の暖かみのある光のランプです。道路・工場・商業施設などに省エネを推進する光源として広く普及しています。

●水銀灯

水銀蒸気中の放電による発光を利用したランプです。道路・工場・防犯灯などに広く使われています。

●LED 灯

次世代の照明である LED は、省エネ、長寿命、小型、水銀レスなどの要素を兼ね備えています。紫外線領域の光が少ない(虫の飛来を抑制)などの特徴もあります。

道路 10m間隔照度と街灯直下の水平面照度で こんなにわかる。

★実測の計画を立てる

実測計画を立てます。道路 10m間隔照度では、道路面上の照度の全体的な傾向がわかり、街灯直下照度では、その街灯の適切さがわかります。この2つの調査で地域の実態を数値として把握することができます。

□日程を決める

道路 10m間隔照度・街灯直下照度実測に1日程度確保してください。
満月の前後3日間は、月明かりが明るいため実測を避けましょう。

□雨天時の対応を考える

「延期日程を決めておく」、「後日再検討する」、「その他の対応を考える」に大別されます。

□道路番号と計測地点番号をつける

あらかじめ交差点と交差点の間を1本の道路として、計測する道路番号をつけてください。

□実測経路を定める

実測経路を決めましょう。一カ所にかかる目安時間は、移動時間を含めて1分程度です。
実測は日没後に行います。

決められた区域内をぐるり一周。

●計測経路を考えます。

6グループに分れた例です。地域の事情を考慮して考えましょう。

例：計測経路・道路番号とエリア、街灯位置を示した地図



測量調査みたいだ。

★実測の流れについて

上級コースでは、道路 10m 間隔照度の計測を行いながら移動し、街灯の付近に到着したら、街灯直下照度の計測を行います。

★実測の注意点

- ・照度計の受光部に自分の影や自動車のライトが入らないようにしてください。
- ・歩行者などの通行の妨げにならないようにしましょう。
- ・自動車には十分に気をつけてください。安全が確保できない場合は計測をしなくてもかまいません。
- ・水平器を使用して、計測器を水平に保ちながら計測しましょう。

★道路 10m 間隔照度の実測

□作業 1 地図を見ながら、計測開始地点に移動。

まず計測地点番号を地図上に記入します。

1本の道路の始点を「1」として、順次これを計測地点番号にしていきます。新しい道路になったら、新しい計測地点番号を「1」から始めてください。



□作業 2 照度計測を行う。

次に路面上の道路 10m 間隔照度を計測し、その計測値を記録用紙に記入します。

※道路 10m 間隔照度実測で 10m 間隔を測定する人はその場から離れないようにしてください。間隔測定者が動きまわると、基準地点がわからなくなります。

※車の通りの多い道路では道路境界線から 50cm の位置を目安として計測します。

※車の通りの少ない道路では道路の中央付近を計測します。

□作業 3 次の計測地点へ移動する。

※1 地点終了後に紐で 10m を測り、次の地点へ移動してください。

□作業 4 以降、作業 1～作業 3 を繰り返して、計測を続ける。

※障害物などでずれて計測する場合は、その詳細を記録用紙の備考欄に記入します。

表通り、裏通り、いろいろあるのが日本の道路。

★街灯直下照度の実測

- ・下見の段階で、街灯番号を地図上に記載しておきましょう。

□作業1 地図を見ながら計測地点に移動する。

□作業2 照度計測を行う。

- ・街灯番号を確認します。
- ・光源の中央部から見て真下の路面上の水平面照度を計測します。
- ・計測値を記録用紙に記入します。

□作業3 次の計測地点へ移動する。

- ・道路10m間隔照度を計測しながら次の計測地点へ移動します。

□作業4 作業1～作業3を繰り返し、計測を続ける。

★計測地点について

※曲がり角に差し掛かる計測点・計測終了点の多少の余りは、数値に影響を及ぼさないため、計測しなくてかまいません。



↑車の通りの少ない道



↑車の通りの多い道

感覚と実態は意外ちがう。

★記録用紙の記入方法について（道路 10m 間隔照度の場合）

※あらかじめ道路番号を決めておきます。

- 作業 1 計測値を「計測値 (lx=ルクス)」の欄に記入する。
- 作業 2 光源の故障などで明らかに暗い街灯があった場合は「気がついたこと」の欄に記入する。また、近くに街灯がある場合も記入する。
- 作業 3 計測地点付近に玄関灯、自動販売機の光など街灯や街灯以外の明るいものがある場合、あるいは、車や掲示板などの計測地点の影になっているものがある場合も、「気がついたこと」の欄に記入する。

道路番号	計測地点番号	計測値 (lx)	気がついたこと

※記録用紙は、Excel ファイルからプリントアウトしてご利用ください。


 水平面照度記録用紙.xls



(記入例)

道路番号	計測地点番号	計測値 (lx)	気がついたこと
1	1	15.7	・ 玄関灯もあるため明るい
1	2		
1	3		

3	9	5.8	・ 曲がり角の近く
3	10		
4	1	10.8	・ 街灯の近く
4	2	9.5	
4	3	8.0	
4	4	7.5	
4	5	6.5	
5	1	11.5	

影になっていたのか。

★記録用紙の記入方法について（街灯直下照度の場合）

□作業1 街灯番号を記入してください。

すでに記入されている場合は確認してください。

□作業2 計測値を「計測値 (lx) ルクス」の欄に記入してください。

□作業3 光源の故障などで明らかに暗い街灯があった場合は「気がついたこと」の欄に記入してください。

街灯番号	計測値 (lx)	気がついたこと

※記録用紙は、Excel ファイルからプリントアウトしてご利用ください。



街灯直下照度記録
用紙.xls



カバーに汚れがない



カバーに汚れがある



障害物の陰がある

照度値で色分けする。

★実測値をもとに集計し地図を作成

実測の結果をまとめ、地区内の現状を目で見て把握、判断できるようにします。それが照度マップです。少し手間のかかる作業ですが、集計を行うことで実態を分析でき、また毎年調査を行った場合は、変化を一目で判断できるようになります。

□分析する

- ・現状と基準値を比較します。
- ・段階別に街灯ポイントに色をつけます。
小さいカラーシールや色鉛筆を使用すると簡単です。

例：

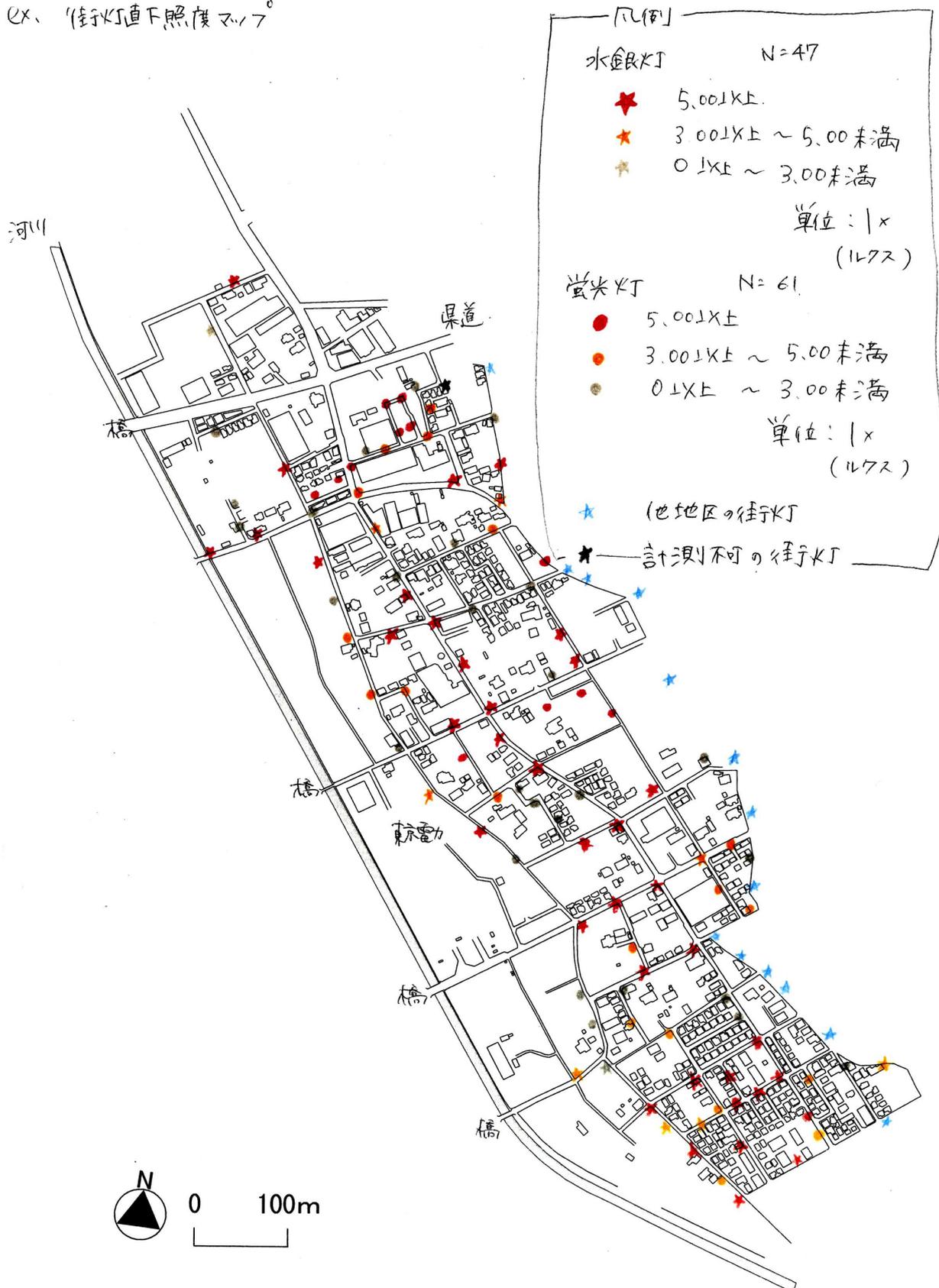
5 lx 以上	赤 or 白
3 lx 以上 5 lx 未満	黄 or 小さい黒
0 lx 以上 3 lx 未満	灰 or 黒

立体的に見えてきたなあ。

★照度マップの例

街灯の種類と照度で色分けした照度マップを作ります。地域の明るさが一目瞭然です

例、'街灯直下照度マップ'



拡張機能でプロの腕前に迫る

「オプション」

全世帯へのアンケートで暗いと感じる場所を抽出したり、

実測メンバーを募ったりする。

さらに鉛直面照度の実測や均斉度の計算までできれば、

もう照度実測のプロといえるでしょう。

「オプション1」実測調査への勧誘

仲間づくりは明るさの第一歩。

●実測調査への勧誘方法

以下のような参加呼びかけのチラシを作る方法もあります。

※この他、Word ファイルに実測調査に関する実測日時通知の例がありますのでプリントアウトしてご利用ください。



実測日時通知チラシ.
doc

実測調査に参加してみませんか？

会

_____ 会が行う街灯照度実測に参加を希望される方を募集しています。
興味のある方は、ご氏名ご連絡電話番号を記入欄にご記入ください。
実測調査日が決まりましたら、後日ご連絡いたします。
※このチラシは大まかな参加人数を事前に把握するためのものです。

ご氏名:

ご連絡電話番号:

実測といってもそんなに難しいものではありません。誰にでもできる簡単な作業です。小学生から大人までどなたでも参加することができます。これまで実測に参加した方々から「こんなに簡単だとは思わなかった」という感想が多く寄せられました。計測器は_____ 会が用意し、使用方法も丁寧に説明します。実際にご自分で計った結果を見ると、違った発見があります。この機会に、ぜひご家族、ご友人お誘い合わせのうえご参加ください。



他地区の夜間照度実測調査の様子

「オプション2」アンケート調査

住民の意見をきいてみよう。

●事前アンケート調査

多くの住民の意見を聞くために、事前にアンケート調査を行います。
アンケート調査用紙はここからプリントアウトできます。やり方を工夫してみてください。



アンケート調査用紙.d
oc

街灯改善プロジェクト

夜間の明るさに関するアンケート調査の実施について

平成 年 月 日
会

拝啓 時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年度、_____ 会は、住民の皆さまと共に夜間の明るさの調査を行い、その結果をもとに地域の住環境をより良くするためのプランを考えます。

今回はその調査の一環として、お住まい周辺の夜間の明るさについて住民の皆さまが日頃どのように感じているかアンケート調査を行うことになりました。

そこで、このアンケート調査の回答者になっていただきたく、アンケート用紙を配布させていただきました。お忙しいことと思いますが、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

ご回答いただきましたアンケート用紙は、_____ 会で集計いたします。また、調査の結果はすべて統計的に扱われ、個人のお名前が公表されることは決してございません。ありのままをお答えいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

敬具

ご回答いただきましたアンケート用紙はこの封筒に入れて封をし、_____ にお届けください。

なお、締め切りは__月 日()です。よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先

_____ 会

〒 _____

TEL. - - FAX - -

E-mail : _____ ()

代表 : _____ 担当 : _____

「オプション3」鉛直面照度

高齢者や子どもの通行が多いところで。

鉛直面照度は背丈で感じ方がちがう。

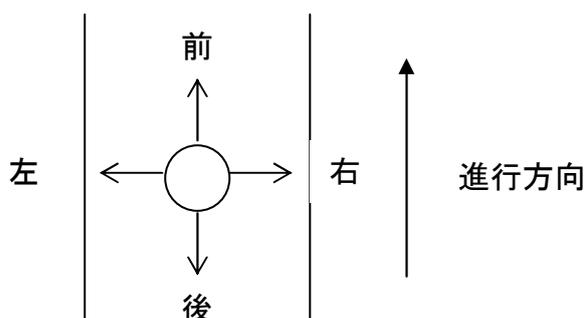
★照度実測オプション

●鉛直面照度

・鉛直面照度とは、人間の目線の高さが実際に感じる照度。普段歩きながら視野に入る光の量を知ることができます。

・水平面照度と鉛直面照度を組み合わせることで、より道路を歩行する感覚で照度をつかめるので、実測の拡張機能として取り入れてみるのもよいでしょう。

※以下のように路面に対して鉛直面に前・後・左・右で測ります。



「オプション4」均斉度

もっと分析したい方には。

均斉度で明るさのムラを計算する。

●均斉度

・道路の明るさのムラを表す指標が均斉度です。「その道路で一番低い水平面照度」を「その道路の水平面照度の平均値」で割った値を表します。道路ごとに均斉度を計算してみましょう。

・明るさにムラがあると値は0に近くなり、ムラが無ければ1に近くなります。

・社団法人照明学会技術基準では、均斉度は、0.2以上を確保するものとしています。

安く、楽しく、計測器を使おう。

- 三浦研究室で照度計（ミノルタ T-10）を貸し出します。
ただし、以下の条件を満たす方に限らせていただきます。

- ・下記所在地（さいたま市）まで取りに来られること。

芝浦工業大学三浦研究室

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作 307 TEL.048-687-5831

- ・破損防止のため宅配便は使用しないこと。
- ・貸出料金は無料。
- ・万一破損・損失した場合は、修理・調達などにより、現物を貸出前の状態に借出者の責任で行うこと。



あとがき

照度実測の小さな足跡は、 住民の心を照らす大きな足跡に。

だれにでも簡単にできる実測で、それぞれで違う夜間照度の実態がわかれば、見えてくる世界観も徐々に変わっていきます。

まず住民一人ひとりが、街灯の不備な箇所や不安な場所を具体的に把握でき、何とかしなければ…という意識から意見交換や行動に結びつきます。

また、街灯を管理する役所なども、住民からの率直な気持ちや具体的な意見、提案を聞くことで改善に向けた行動が起こしやすくなります。そのポイントは、より自主的に、具体的に話を詰めて行けるかでしょう。

では、交渉上手な一部の人に任せておけばよいのでしょうか。

私たち三浦研究室が、これまで多くの現場を訪れ、自治会の方と実際に動いてみると、住民たちの熱く冷静な行動が、物事を動かすケースが圧倒的に多いとわかりました。どんな立場の人であれ、安全・安心で、笑顔のあふれる街にしたい気持ちは同じはずです。街と関わりあう人全てで、わかりあえる街にしようとする気持ちは、何ものにも代え難いものとなって受け継がれていきます。

小さな照度実測を始めることで、街灯改善の方向が見えて、新たな一歩が踏み出せます。その積み重ねは、やがて街と住民の心を照らす大きな足跡となると確信しています。街灯改善プロジェクトの手引きが、皆さまの意識高揚と行動の一助となれば幸いです。

お問い合わせ先

芝浦工業大学三浦研究室

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作 307

TEL.048-687-5831 FAX.048-687-5832

E-mail : masao@sic.shibaura-it.ac.jp (三浦)

ホームページ : <http://www.mmlab.se.shibaura-it.ac.jp/>

教授 三浦昌生